

ベルマーク活用 わが社は協賛会社に聞く

エスビー食品

ベルマーク運動協賛会社へのインタビューシリーズ「私の会社とベルマーク」。11回目は、エスビー食品株式会社です。1960(昭和35)年にベルマーク財団が設立された当初から協賛されています。今年ご参加いただいたベルマーク運動説明会を中心に、コミュニケーション企画室広報ユニットの千葉仁さんと七野末さん=写真=にお話を伺いました。(聞き手・米内隆、石田美由紀、海野哲生、写真・海野、朝日教之)

説明会で課題を見つける



「御社には、6月15日に越谷で開催したベルマーク運動説明会に参加していただきました。55年もの間、協賛していただいています。お客様の生の声をお聞かせください。」

「ベルマーク財団が設立されてから、約55年間にわたり協賛会社として参加させていただいております。『ベルマークを弊社商品につけていることを、お客様に知っていただけているのか』ということが、常々気にかかっています。お客様の生の声をお聞きし、それを確認したいということが今回参加させていただいた理由の一つです。」

「越谷会場には71の幼稚園・学校などから295人もの方が出席されました。受付=写真=の際には、アンケートと、御社のベルマーク付き商品であるゴールデンカレーを配布していただき、みなさん

とても喜んでいました。

アンケートについては、出席された大半の261人もの方々に提出いただきました。自由回答の質問もありましたが、非常にさまざまなご意見をお寄せいただきました。

アンケートの結果、弊社商品にベルマークがついていることをあまり認知されていないという方が多いこともあらためてわかり、弊社のベルマーク活動をもっと広く知っていただくという今後の課題が見つかったように思います。

「学校から集計されたベルマークが財団に届く際に、御社のベルマークが入っていないということがほとんどありません。ですから、そのアンケート結果は意外です。今日は、実際に学校側が集計して財団に送ってきた御社のベルマークを何枚か持参しました=写真=ので、ご覧いただけますか。」

「このように送ってくださるのですね。このベルマークの先には、皆さまがご家庭で弊社商品を楽しんでいただけている姿があるわけですから、とても嬉しく思います。」

「自社商品のキャラクターとコラボしたオリジナルのベルマークを採用してくださっている協賛会社もいらっしゃいます。ベルマークをつけていることを認知していただく、関心を持っていただくという意味では、良いアイデアだと思いますが、いかがでしょうか。」

「なるほど、面白いアイデアですね。お子様とその保護者の方々が集めてくださっているものなので、皆さまが楽しんでいたり、話になったりするよう仕掛けも大切だと思います。ベルマークのデザインひとつで幅広い年代の方に興味を持っていただけるように、お客様の意識が変わるきっかけになるかもしれないので、参考にしたいと思えます。」

地域巻き込む活動 関心

「財団としては、せっかく協賛していただいているので、ベルマークを最大限に活用していただき、お力になりたいと考えています。ただ、新商品のPRなど、大多数の人にスピーディに周知するという点ではベルマークでは分が悪いでしょう。商品を選ぶ選択肢が数ある中で、ベルマークを集めるために、お母さんがエスビーのカレーを選び、お子様が大人になってもエスビーのカレーを選んでくれるような、長年にわたるファンが自然とできるよ

なことに、お力になれたらと思うのです。

確かに、多くの方にいち早く新製品を知っていただくにはCMやキャンペーンなどのプロモーション活動が重要です。一方で、お客様に長くご愛顧いただけるブランドに育てていくためには、ベルマーク運動のように社会活動を通して商品を知っていただく事がとても大切な時代になっていると考えています。

当社は長年にわたり、商品にベルマーク点数をつけてきましたが、今回のベルマーク運動説明会に参加して、ベルマーク運動に携わっている方々の熱心な活動や商品への愛着に触れ、ベルマーク運動に協賛する意義や目的を、私たちがあらためて認識することが大切だと感じています。

「今年はゴールデンカレーを配布していただきましたが、オリジナルの回収箱を製作、配布して下さった協賛会社もありますので、ご検討いただければ。」

「拜見しました。弊社なら、商品パッケージを模して回収箱を製作して、カレーレシピを紹介したりすると皆さまに喜んでいただけたらいいですね。説明会に参加された方々がご家庭に持ち帰って、キッチンなどに置いていただけることを想像すると、私たちにとても嬉しい事です。」

説明会では、他の協賛会社がどのようにベルマークを活用しているのかも知ることができ、気づきや驚きもありました。ベルマーク財団との取り組みだけではなく、今後は他の協賛会社とのつながりや、合同イベントなどを催せたらとアイデアが膨らみました。

また、ベルマーク運動が小学校中心の活動だと認識していましたが、学校周辺の地域巻き込んだ地域ぐるみの活動になっているという説明会での発表をお聞きして、非常に関心を持ちました。

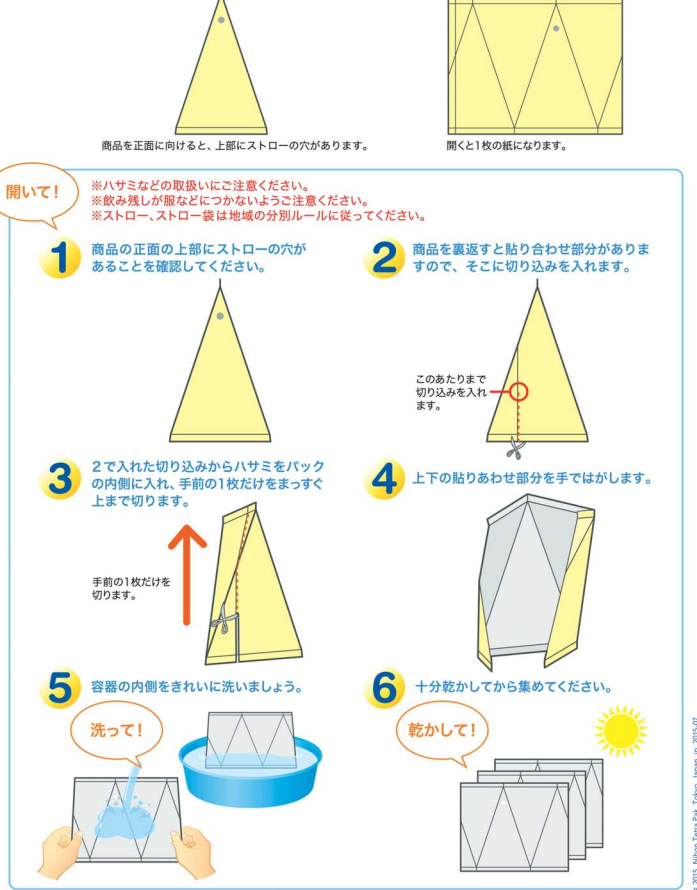
大きな社会活動 推進を

「少子化などもあり、学校だけではベルマークが集まらなくなってきました。学校周辺の地域の協力を得て、ベルマーク収集をしている学校が特に増えているようです。」

「弊社では、1984年から『食と健康』をテーマに小学生を対象にした『S&Bちびっ子健康マラソン大会』を全国で開催しています。ベルマーク運動を通じて、未来にははたらく子どもたちを応援したいと考えていますので、今後も協賛会社として新たな取り組みを含めた活動を考えていきます。また、ベルマーク運動が学校だけが取り組む運動ではなく、学校周辺の地域全体で盛り上げていくような大きな社会活動になることを願っております。ぜひベルマーク財団に推進役になっていただき、協賛会社が活動できる場を作ることに期待しています。」

■テトラパックの紙容器(三角型)の開き方

紹介している開き方は一例です。



三角パック 開き方です

(1面記事参照)



生き物の観察・撮影いかが

参加親子募集

協賛会社のキヤノンマーケティングジャパン(キヤノンMJ)が、ベルマーク(番号19)が、8月1日に静岡県三島市で小学3年生〜6年生20人と保護者を対象に「生き物の観察会・撮影会」を開催します。

会場はホテルが自生する源兵衛川周辺です。写真・生き物や植物と触れ合い、子ども一人一台貸し出す一眼レフカメラ。

7月16日まで参加者を募集中です。キヤノンMJでは「夏休みの自由研究」に「生き物の観察会・撮影会」として活用できます。

キヤノンMJは子ども向けのポータルサイト「キヤノン環境キッズ」を新設しました。人気の「分別を学ぶ出前授業」も7月から全国の小学校で展開することになり、実施校を募集しています。

サイトは「http://www.canon.jp/ecology/kids/index.html」。

キヤノンMJは子ども向けのポータルサイト「キヤノン環境キッズ」を新設しました。人気の「分別を学ぶ出前授業」も7月から全国の小学校で展開することになり、実施校を募集しています。

サイトは「http://www.canon.jp/ecology/kids/index.html」。

全国1位に輝いた表彰状と記念品を囲んで。右からショウワノートの片岸茂社長、黒沢尻東小の木野渉PTA会長、澤藤耕平校長



全国1位に岩手・黒沢尻東小ショウワノートキャンペーン

協賛会社のショウワノート(ベルマーク番号53)が2014年に実施した「第41回ベルマークキャンペーン」で、岩手県北上市立黒沢尻東小学校(澤藤耕平校長、児童74人)が全国1位に輝きました。6月18日、同校で表彰式がありました。1年間の集積点数は1万2848点で、東北の小中学校からは初の全国1位受賞となります。

キャンペーンでは2014年1月から12月までの1年間、ショウワノートの製品についているベルマークをたくさん集めた学校の中から、全国1位と全国を8ブロックに分けたそれぞれ上位3校を表彰しました。

ショウワノートから学校へは、表彰状と、記念品として辞典や図鑑などの書籍やノートが贈られました。各ブロックの1位〜3位の入賞校は財団ホームページで。

「どんぐりポイント」電子絵本でPR



「どんぐりポイント」って聞いたことありますか? 地球温暖化を防ぐために経済産業省が応援している啓発事業のことです。キャラクターの「どんぐり」を主人公に、どんぐりポイントをわかりやすく説明する電子絵本「どんぐりの大冒険」ができました=写真上は表紙。



ふだん暮らす森から冒険に出たどんぐり。外で大変な目に遭って考えました。「なんだか地球がおかしいぞ」。絵本の後半で、ものしり先生が解説してくれます。親子で楽しみ、学校や催しなどでも活用できそうです。

どんぐりポイントには協賛会社のキヤノンマーケティングジャパンが取り組み、ベルマーク財団も参加しています。どんぐりポイントはベルマーク運動説明会の新橋会場に登場しました(5面にも写真)。環境により商品やサービスにポイントをつけ、集まったポイントで環境保護や被災地支援に充てる仕組みです。

キヤノンMJのインカートリッジ回収で集めたベルマークの点数は同額のどんぐりポイントと見なされ、それに経産省の補助金がつきます。その部分が財団を通して被災地に支援されます。

どんぐりポイントのホームページは「http://www.donguripoint.jp/」。どんぐりポイントとベルマークが連携した取り組みも見ることができます。



飲まれつづけている理由があります。

<三ツ矢サイダーの約束>

- 磨かれた水をつかう。
- 果実由来の香りをいかに。
- 非加熱製法。

三ツ矢サイダーは保存料を一切使っておりません



三ツ矢サイダーは、ベルマークに参加しています。